

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

平成 23 年度活動報告書・平成 24 年度事業計画概要

センター	名称:一橋大学大学院社会学研究科 ジェンダー社会科学研究センター ウェブサイト:http://gender.soc.hit-u.ac.jp 学内活動拠点・同電話番号:マーキュリータワー 3617・042 (580) 9140
報告者 (センター代表者)	氏名:坂元ひろ子 電子メール:sakamoto.banyuan@gmail.com
報告書提出年月日	2012 年 3 月 26 日

平成 23 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2011 年度は、代表(坂元ひろ子)、教育部門総括 1 名(洪郁如)、研究部門総括 2 名(伊藤るり、佐藤文香)、総務・財務部門総括 1 名(貴堂嘉之)、共同推進者 8 名(足羽與志子、井川ちとせ、小井土彰宏、尾崎正峰、木本喜美子、坂なつこ、多田治、中野聡)、学外共同推進者 3 名(ニューカッスル大学教授・ダイアン・リチャードソン、メルボルン大学教授・ヴェラ・マッキー、国際基督教大学教授・田中かず子)の総計 16 名の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

GenEP 部門では、2007 年度より全学的なジェンダー教育プログラムを提供してきたが、2011 年度は、夏学期に基幹科目群 8 科目、連携科目群 23 科目、冬学期には基幹科目群 2 科目、連携科目群 21 科目の合計 54 科目を提供し、総計 5,639 名の学部生・院生が授業を履修した。全体として、プログラムの科目群はより充実し、安定した運営を行うことができているといえる。

また、今年度も大学教育開発センターの「授業アンケート」を利用する形態で、GenEP 提供科目の受講者全数に対する調査を実施した。その分析結果によれば、これらの提供科目に対する受講生の満足度は総じて高く、より一層プログラムへの期待が高まっているといえる。

2.2 研究実績

- (1) 本センター構成員の個々の研究実績については割愛するが、昨年度開催した国際シンポジウム「東アジアの越境・ジェンダー・民衆 —ドキュメンタリーと映画から見た日台関係の社会史」の成果として 7 月に『台湾映画表象の現在 —可視と不可視のあいだ』(星野幸代・洪郁如・薛化元・黄英哲編、あるむ)を刊行した。
- (2) 代表の坂元ひろ子は 10 月中国での「四川辛亥革命暨尹昌衡国際学術研討会」および 12 月神戸での辛亥革命 100 周年記念国際シンポジウムにおける「辛亥革命とジェンダー」の招待報告、研究部門総括の伊藤るりは 6 月イタリアでの国際会議“Rethinking Intimate Labor through Inter-Asian Migrations”の招待報告、同総括の佐藤文香は 2012 年 2 月アメリカでの Harvard-Yenching Institute Visiting Scholar 研究報告を行った。

2.3 外部機関等との連携、社会貢献の実績、外部資金の獲得等

外部機関等との連携実績

- (1) 外部講師を招聘し、下記の講演会を開催した
 - ① 公開レクチャー・シリーズ(第14回):2011年6月24日
エレナ・ヒラタ(フランス国立科学研究センター 研究ディレクター)
「ジェンダー、労働、ケア ―フランスの研究動向」 共同司会:木本喜美子・伊藤るり 通訳:伊藤るり
 - ② 公開レクチャー・シリーズ(第15回):2011年7月15日
包英華 (内モンゴル大学 民族学社会学学院 専任講師)「20世紀前半のモンゴル族(内モンゴル)女性の伝統と現代」 司会:坂元ひろ子 通訳:呉忠良(早稲田大学大学院文学研究科 博士課程)
 - ③ 公開レクチャー・シリーズ(第16回):2012年1月20日
北原恵 (大阪大学大学院・文学研究科 准教授)『人間天皇』の表象 ―『天皇ご一家』像から見えるもの
司会:坂元ひろ子
- (2) 外部講師を招聘し、他機関と連携をとりながら、下記の国際交流セミナーの開催を後援した。
国際交流セミナー:2011年12月6日
ラセル・S・パレーニャス(南カリフォルニア大学 教授)「道徳的帝国主義とアメリカの人身取引撲滅キャンペーン」 司会:伊藤るり 共催:国際移動とジェンダー研究会、国際社会学研究会
- (3) 2009年11月に発足した多摩地区ジェンダー教育ネットワーク(呼びかけ人:田中かず子・加藤恵津子(国際基督教大学)、木本喜美子)は、3回の会合を積み重ねた。

社会貢献実績

- (1) 公開レクチャー・シリーズおよび公開ワークショップ、国際シンポジウムは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っている。毎回のレクチャーには常に50名近い参加者を集めており、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。
- (2) GenEP部門が提供しているジェンダー教育プログラムでは、一つの柱として労働・経営・キャリアデザインの系列を重視しているが、とくに共通教育科目「男女共同参画時代のキャリアデザイン」では講師に本学卒業生が登壇することも多く、卒業生や如水会との連携・協力関係の構築に大きく寄与している。本講義に登壇した講師を招いての報告会は今年度で4回目を迎え、現代の学生像、大学教育のあり方等について、卒業生、社会人・企業人と幅広く意見交換を行う貴重な場となっている。

外部資金獲得実績

- (1) 本センターのGenEP教育部門を実施主体とした「一橋大学におけるジェンダー教育プログラム(GenEP)の高度化推進プログラム」プロジェクトは、2011年度大学戦略経費「教育研究改革・改善プロジェクト経費」の事業として採択され、138万円を得た。
- (2) 公開レクチャー・シリーズの第14・15回講演および後援した12月の国際セミナーには、本学の国際セミナー費を得た。

平成 24 年度事業計画概要

3. 平成 24 年度の事業計画

平成 24 年度は、他研究科の共同推進者の協力をあおぎつつ、以下の四つの指針にそった事業を展開していく。

- (1) ジェンダー教育プログラムの学部および大学院課程でのディプロマ化、他大学のジェンダー教育プログラムとの単位互換の制度化にむけて検討を開始する。
- (2) 新たに全学部の教員が共同推進者としてジェンダー社会科学研究センターの運営にかかわることで、包括的・分野横断的な全学的ジェンダー教育プログラムの質的向上を図る。
- (3) 大学院生向けの教育プログラムとして、女性学・女性史研究者の第一世代に対するライフヒストリーを収集・記録するプロジェクトを始動させる。
- (4) ジェンダー社会科学研究センターのスタッフによるジェンダー/セクシュアリティ教育用のテキスト(研究者養成を目的とした大学院生向け)の作成に向けて準備を開始し、文献リストのデータベース化プロジェクトを始動させる。

これらの四つの新機軸に加え、従来とりおこなってきた GenEP プログラムの運営、国内外の第一線の研究者を招聘して開催するレクチャーシリーズ・ワークショップを通じた学内の啓発活動、学外への積極的な情報発信を実施する。

4. 平成 24 年度における組織改廃計画

本センター規約(2010年4月1日施行)に基づき、2012年1月18日の運営協議会において、2012年度の代表および各部門総括の選出を行い、代表として坂元ひろ子、教育部門総括として坂なつこ、研究部門総括として伊藤るり、財務・総務部門総括として貴堂嘉之が選出された。

また、2007年～2011年度の第一期の終了に伴い、現メンバーの多田治、足羽與志子の二名がはずれ、研究科外メンバーとして新たに越智博美、河野真太郎、川口大司、吉野由利、中井亜佐子、三浦玲一、イ・ヨンスクの7名が新規に加わる。

5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)

特になし。